

富士山 須走口

山スキー

2022年05月06日(土)

L：桐林



須走口お釜より氷瀑を眺める

5月6日朝1時過ぎに浜松を出発。行きは高速。4時ごろ須走5合目駐車場に到着。5時過ぎに出発。駐車場でスキーをしに来たICI石井スポーツのK氏（後から判明）と挨拶をした。「頂上から滑りたい」との同じ思いのもと、初対面ながら一緒に登り、一緒に滑降。念願の頂上からというもの、少し下がり3,700mより滑降できた、一度も転ばずに。

3週連続で登っている甲斐があり、スタスタ登れた。2,400m 程度のところで兼用靴に変え、5合目と同じ目線あたりでアイゼン歩行にした。ほぼ板は担いだ。7合目あたりで大休止。前回、カリカリであったため、一度雪面を確認するため、6合目あたりまで滑降。まずまず。ここで10時手前であるため、雪面が緩むとふみ、頂上を目指した。さすがに3,500m以上ともなると、空気が薄いのが体感でき、足を止め呼吸を整える回数が増えていった。9合目でさらに小休

止。黒く変色しているザラメであれば、コントロールができるだろうと歩きながら確認。規則性があるようにはいかず、そのザラメとシュカブラの2パターンができていた。手強いぞ。

須走口頂上の鳥居が近づけば近づくほど、歓声が出ては引っ込め、気持ちがいい。やっと念願の頂上滑降かと、お釜の氷瀑を見ながら思った。内心の動揺を隠しながら。鳥居から一段下がり、準備。ワクワクが7割、ドキドキが3割。もう行くしかないで行けど、1ターン目に躊躇する。シュカブラ帯が怖くて、スライドさせザラメ帯へ。そこからは、勢いがつきターンターン。シュカブラも勢いをつけば大丈夫。そこからはお手の物。3,000mも降ればもうそこは湿雪の豪快のターン。溶岩を避けどンドン体を振る。奇声を上げながら、一体感を楽しんだ。やっと、滑降できた。満足で一杯。



約1,200mの滑降が終わる

平出和也氏「サミサール初登頂」講演会

ICI石井スポーツ 甲府店

2022年05月07日(土)

参加者：桐林



ピオドーレトローフィーとともに

昨日のICI石井スポーツのK氏とお話している中で、ちょうど明日平井和也氏の講演があることを知りました。申し込み枠に余裕があり、当日でも飛び入り参加可能。しかも、無料で。サミサール初登頂後の初となる講演会でした。

講演開始から重い雰囲気が始まり、言葉がつまった場面が多々ありました。平出氏はサミサール初登頂したのに「失敗だった」という言葉が重くその場に残りました。登頂後、ベースキャンプからへりで救急搬送されたことに対して深く悔いが残っているようでした。この伏線は、ベースキャンプまでの道のりの凍った川から始まっていました。ベースキャンプにテントキーパーがいるものですが、ポーターやコックは帰ってしまい、平出氏とパートナー伊藤氏の2人だけの生活だったようです。たいていベース

キャンプ生活はのほほんと楽しく過ごしている印象でしたが、「持ってきたウェアを全て着ても寒かった」とのこと。とにかくいつも寒さを気にされており、アタックキャンプから外に出た瞬間に猛烈な寒さを感じたそうです。2ヶ月ほど凍傷で入院されており、最近やっとランニングができるようになったそうです。

サイン会で「次はK2ですか」の問いかけに、慎重にまずは山に慣れることからという回答でした。最後の5分間のスライドに平出氏の熱い思いが出ていました。挫折を繰り返してきたと。どんな挫折があったかを説明されていました。めげずに挑戦してほしいです。しかし、どこかで辞めてもいいのではと思わずには居られない講演でした。奥さんから入院中に「ご飯をしっかりと食べたら」の電話の言葉がぐっときました。



平出和也氏と記念撮影